

	頁
目次	
口絵	
序	
凡例	
細目次	
第一編 県民生活と地域社会	1
第一章 県民生活の変化	3
第一節 生活規制	3
第二節 衣食住・暮らし方	13
第三節 窮迫状況	38
第四節 結婚と子ども	48
第五節 娯楽の拡大	60
第二章 女性と近代	63
第一節 女性の位置	63
第二節 士族・農民から労働者へ	73
第三節 社会活動への進出	90
第四節 女性の発言と行動	101
第五節 愛国婦人会の育成	110
第三章 地域社会の変貌	117
第一節 村社会とムラ	117
一 近代初期の村	117
二 町村制下の村	129
三 日露戦争後の村	144
第二節 都市社会	163
一 近代都市の発足	163
二 都市の拡大	173
三 都市としての整備	182
第四章 衛生・災害・環境・犯罪	193
第一節 科学的な衛生観念の形成	193
一 呪術から科学へ	193
二 伝染病との闘い	197
第二節 災害と備え	219
一 災害のもたらしたものの	219
二 防災への備え	227
第三節 生活環境の破壊と保全	239
一 環境問題の発生	239
二 生活環境の保全	242
第四節 犯罪と社会	250

一 犯罪者の世界と周辺	250
二 防犯への備え	270
第五章 宗教と祭礼	277
第一節 国家神道と神社・神官・氏子	277
第二節 仏教の近代化と革新運動	295
第三節 キリスト教・新宗教と「信教の自由」	311
一 キリスト教	311
二 新宗教	327
第四節 国家的祭祀と県民	332
一 戦没者の慰霊	332
二 天皇代替わり儀式	336
第五節 宗教者の社会的活動	340
第六節 民衆の信仰と祭礼	350
一 民衆の信仰	350
二 祭礼	356
第六章 戦争・軍隊と県民	361
第一節 西南戦争	361
第二節 日清戦争	364
第三節 日露戦争	379
第四節 第一次世界大戦	394
第五節 軍事演習	401
第六節 軍事援護団体	406
第七節 軍隊に対する県民の意識	414
第七章 被差別部落と植民地民族	421
第一節 被差別部落民の問題	421
一 差別と貧困	421
二 差別問題の論調	426
第二節 部落改善事業の展開	432
一 社会対策としての改善事業	432
二 部落内外からの改善事業	437
三 自主的改善運動の動き	444
第三節 民族差別の問題	447
一 台湾住民	447
二 朝鮮人	450
三 朝鮮問題論調	454
第八章 社会事業の模索	461
第一節 県民救済の方向	461
第二節 草創期の愛知育児院	471
第三節 社会事業家	486

第四節 施設の諸相	498
第五節 救済資金	503
第二編 近代前期の社会運動	511
第一章 公娼制度と廃娼運動	513
第一節 公娼制の復活	513
第二節 遊廓と娼妓	523
一 廓の構成	523
二 娼妓の環境	527
三 娼妓の経済生活	531
第三節 廃娼運動	538
一 脱楼	538
二 民間からの廃娼運動	542
三 楼主側の反応	549
四 娼妓の自由廃業運動	553
第二章 兵士・民衆の軍事への異議	565
第一節 軍隊社会の諸問題	565
第二節 軍隊からの逃避	573
一 徴兵検査忌避	573
二 召集忌避	578
三 逃亡と自殺	583
第三節 軍・戦争への異議と批判	593
一 軍隊批判と非協力	593
二 軍拡・戦争批判論	599
第三章 農村の状態と農民運動	607
第一節 農村の変貌	607
一 窮乏・小作人問題	607
二 出稼ぎ・移住	615
三 地主・篤農家	620
第二節 小作紛争	627
一 明治前期	627
二 明治中期	634
三 明治後期～大正前期	643
第三節 小作人と地主の組合結成	651
一 初期の小作人組織	651
二 大正前期の小作人・地主の組織	651
第四章 労働環境と労働運動	657
第一節 労働者と職場	657
一 経営者の配慮	657
二 虐待	659

三 労働災害・疾病	664
四 労災取締規則	671
第二節 労働争議	674
一 屋外労働者・職人の争議	674
二 工場労働者・職員の争議	678
第三節 労働者の組合組織	690
第四節 労働者保護論と工場法	696
一 労働者保護論	696
二 工場法	707
第五章 初期社会主義と大逆事件	717
第一節 愛知の初期社会主義運動	717
第二節 愛知の初期社会主義運動	726
第三節 愛知における宮下太吉と大逆事件	733
第四節 初期社会主義者群像	742
第六章 住民問題と住民運動	773
第一節 地域紛争と住民	773
一 地方首長などへの批判	773
二 地方政策をめぐる紛争と規制	776
三 公害など生活権をめぐる紛争	781
第二節 学園生活をめぐる生徒の紛争	788
第三節 都市住民の料金値下げ運動	795
一 借家人の運動	795
二 借地人の運動	799
三 電気料金値下げ運動	802
第四節 名古屋電車焼き打ち事件	807
一 電車賃引下げ問題	807
二 焼き打ち騒擾事件	813
三 焼き打ち事件の影響	819
第七章 商工業者・地主と言論人の運動	825
第一節 明治期の反税・減租運動	825
一 日清戦争期の増税と反税運動	825
二 日露戦争期の増税と反税運動	828
三 地租軽減運動	833
第二節 大正前期の反税・減租運動	836
一 一九一四年の営業税廃止運動	836
二 一九一四年の地租軽減運動	843
三 職工税反対運動	847
第三節 日露講和反対運動	851
一 講和会議報道と反対論	851

二 県内各地の講和反対運動	853
三 県民大会の高揚	857
第四節 「大正デモクラシー」の登場	860
一 記者団の活動と護憲・反閥族論調	860
二 海軍廓清運動	864
三 「デモクラシー」の提起と普及活動	868
第八章 米騒動と民衆	879
第一節 県内各地の米騒動	879
一 名古屋地域の米騒動	879
二 尾張地域の米騒動	905
三 三河地域の米騒動	912
第二節 米廉売状況	927
第三節 報道禁止と新聞の反撃	932
解説	939
あとがき	
資料提供者及び協力者	
愛知県史編さん関係者名簿	